



西門司

【学校目標】
自ら考え、やりぬく子ども

学力特集号
令和元年11月19日
文責 上杉 良子

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

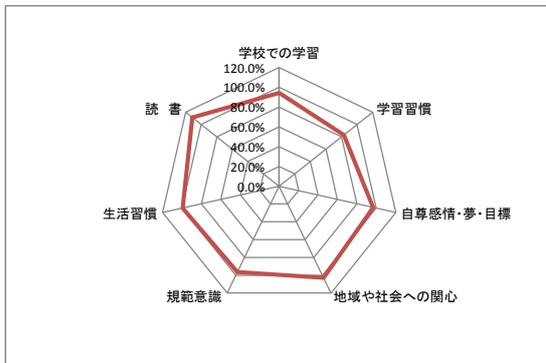
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全ての領域について全国平均正答率を上回っている。 無解答率が、全国の無解答率と比べ低く、最後まであきらめず問題に取り組んでいる。 	上回っている
算数	<ul style="list-style-type: none"> 「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」のすべての領域について全国平均正答率を下回っており課題である。 特に、日頃の活動の中でテープ図や数直線をノートに書かせて問題を解くようにさせることや授業の中で図や数直線などを用いて、数量の関係を視覚化し的確に捉え、立式させることが必要である。 	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- 「読書」について好きと答えた児童が多く、学校の授業時間以外でも普段から読書をする児童が全国と比べ多い。本校が行っている、図書司書を中心とした図書室の環境作り、図書ボランティアによる朝や昼の読み聞かせなどで読書について親しみを感じていることがうかがえる。
- 「学校での学習」では、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることに課題をもっている児童が全国と比べ多い傾向にある。自分の考えを表現する力を伸ばすために「自分の考えを整理する時間の確保」と「書く活動」(ノート指導、学習感想)「話し合い活動」を重視する必要がある。
- 「学習習慣」家庭学習において、宿題も含め、家で計画を立てて勉強することや1時間以上家庭学習をする等について全国平均を下回っており、家庭学習の充実を図る必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

〈全校での取組〉

- 思考の足跡が読み取れるノートづくりを指導し、自分の思考を基に自分の考えを他の人に説明できるようにする。
- 「西門司小学力アップスタンダード」を基に各学年で「教室環境」「学習規律」「書く活動」「話し合い活動」「家庭学習」の定着を図る。
- どの教科においても一単位時間の授業の中で、必ず「話し合い活動」を取り入れることを全教科で取り組む。
- 基礎的・基本的な学習の定着のため「西門司タイム(朝タイム)」で「算数タイム」「国語タイム」での「補充学習」を行い指導する。
- 他者との関わりに視点をあてて自己の考えの広がりや深まりを振り返ることによって自己効力感が高まるようにする。

〈国語科の具体的取組〉

- 自分の考えを整理する時間(一人活動・振り返り)をとる。
- 分からない漢字は自分で調べるなど、辞典の活用を習慣づける。
- 目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、複数条件にあわせ、字数制限で書くこと(まとめ・振り返り)等をする。
- 導入時に何のために何について活動を行うのか明確にする。

〈算数科の具体的取組〉

- 図形の性質や構成要素の理解を深める。図形をずらしたり、回したり、裏返したりすることで、ほかの図形を構成させるようにする。
- 「書く」活動の充実を図る。自分の考えがあるノート指導を行ったり、テープ図や数直線をノートに書かせて問題を解かせたり、複数の情報から分かることを書いて話し合わせたりさせる。
- グラフの特徴を複数の観点で捉えて情報を読み取るようにさせる。
- 複数の情報を関連づけて論理的に考察するようにさせる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

〈全校での取組〉

- 「西門司すくすく」を基に、家庭での生活習慣作りや学習の基本事項を教師と保護者が連携して考えることができるようにする。
- 「家庭学習の手引き」を基に、保護者配布や学校だより・保護者会等で家庭に周知する。
- 「家庭学習の手引き」を基に、主体的に複数教科の自主学習に取り組み、家庭学習の素地を作るために学期に1回、1週間の家庭学習ウィークを行い、「自ら考え、やりぬく子ども」を育てる。
- 各担任が、年間通した「家庭学習頑張りカード」を基に計画的に家庭学習に取り組むように指導する。
- 宿題を「宿題+自学自習(自分で考える)」としたり、宿題の質を向上(本読みだけでなく言葉調べや気づきを書かせる・予習をさせる・答え合わせ→やり直しまでさせる)させたり、家庭学習を「1・2年30分、3・4年45分、5・6年60分以上」とし、計画的に家庭学習を行わせる。